

2005年 吉備国際大学政策マネジメント学部 専任教員業績一覧(五十音順)

以下は、本学部の専任教員が2005年1月1日から2005年12月31日の間に行なった研究及び教育、社会貢献活動の一覧です。紀要委員会が専任教員に依頼し、任意の自己申請にもとづいて作成しました。

研究、教育、社会貢献活動は次のように分類しています。①著訳書、②学术论文、③報告書、④学会発表、⑤書評論文、⑥雑誌、⑦新聞、⑧公開講座、⑨放送、⑩講演。

荒田 鉄二 (あらた・てつじ)

③報告書

- (1) 「Capacity building on climate change and locally-owned technology and systems—Final report for APN CAPaBLE Project: 2004-CB04CMY-Naito」(分担執筆) Kyoto Institute for Eco-sound Social Systems (代表: 内藤正明), 2005年9月

⑩講演

- (1) 「環境学」, 2005年6月1日, 於: 岡山県立一宮高校
- (2) 「食卓から考える環境問題」, 2005年6月16日, 於: 岡山県立高梁城南高校
- (3) 「食卓から考える環境問題」, 2005年8月12日, 於: 愛媛県立宇和高校
- (4) 「食卓から考える環境問題」, 2005年8月24日, 於: 島根県立松江東高校
- (5) 「食卓から考える環境問題」, 2005年8月29日, 於: 岡山県立倉敷中央高校
- (6) 「環境に関する仕事」, 2005年10月28日, 於: 岡山県立総社高校

飯田 永久 (いいだ・ながひさ)

④学会発表

- (1) 「MOT教育に関する産学間の認識の差について」産学連携学会第3回大会 2005年5月27日 於: 徳島市

⑩講演

- (1) 「MOTとは何か」エネルギーマネジメントスクール経営塾 MOT コース 2005年1月22日 於: 中国電力小町クラブ (広島)
- (2) 「いま何をすべきか—片上のまちづくり—」片上まちづくり委員会総会講演 2005年6月3日 於: 備前商工会議所
- (3) 「MOTを斬る」(社)山陽技術振興会技術交流会 2005年4月15日 於: クラレ労働組合本部会館 (倉敷)
- (4) 「MOTのあり方について」吉備の国クラスター総会記念講演 2005年6月16日 於: 倉敷商工会議所
- (5) 「これからの地域と企業の課題—激変する環境に地域社会と企業はどう対応すべきか?—」経営安定研修会 2005年9月16日 於: 備前商工会議所

井勝 久喜 (いかつ・ひさよし)

②学術論文

- (1) 「チトクローム P450産生細菌 *Rhodococcus* sp. strain EP1 による有害有機化合物の分解」(共著, 第一著者)『吉備国際大学政策マネジメント学部紀要』第1号(2005年), 11-18

③報告書

- (1) 「文部科学省科学研究費補助金特定領域研究平成16年度研究成果報告書ー環境安全学の創成と教育プログラムの開発: 実験廃棄物の新規分解技術の開発と, それに対応した廃棄物処理システムの提案」(分担執筆 代表: 高月紘) 2005年3月

④学会発表

- (1) 「ジクロロメタン分解細菌 *Ralstonia metallidurans* PD11株のバイオリクターへの応用」日本防菌防黴学会第32回年次大会, 2005年5月24日~25日, 於: 豊中市(連名著者)
- (2) 「Immobilization of a dichloromethane degrading bacterium *Ralstonia metallidurans* PD11 for waste treatment」Joint Meeting of the three divisions of the International Union of Microbiological Societies 2005, 2005年7月16日~19日, 於: San Francisco, CA, USA. (連名著者)
- (3) 「Immobilization of a dichloromethane degrading bacterium *Ralstonia metallidurans* PD11 for waste treatment」7th Symposium on Asian Academic Network for Environmental Safety and Waste Management, 2005年9月20日~22日, 於: Tokyo, JAPAN (連名著者)
- (4) 「*Ralstonia metallidurans* PD11株固定化担体を用いたジクロロメタンの分解」日本防菌防黴学会2005年度秋季合同シンポジウム, 2005年11月4日, 於: 津市(連名著者)

⑥雑誌

- (1) 「微生物が産生するチトクローム P450による有害有機化合物の分解」(共著 第一著者)『防菌防黴』第33号(2005年) 29-36
- (2) 「廃棄物処理外部委託のための技術ガイドラインの活用方法について」(共著 第一著者)『大学等環境安全協議会会報』第22号(2005年) 60-67

⑦新聞等

- (1) 「こどもエコクラブ交流会 ~大学生の社会貢献活動~」(単著)『広報たかはし』2005年12月

⑩講演

- (1) 「生活と化学物質」ばる塾環境学習講座, 2005年3月5日, 於: 岡山県生涯学習センター
- (2) 「人間と自然が共に生きるしくみ」総合学習の時間, 2005年10月26日, 於: 岡山県立鴨方高等学校
- (3) 「地球環境科学入門ー環境問題を考える視点ー」総合的学習社会人講師講演会, 2005年11月17日, 於: 岡山県立大安寺高等学校
- (4) 「化学物質との付き合い方ー化学物質のリスクを考えるー」社会人講師活用事業, 2005年12月16日, 於: 岡山県立津山工業高等学校
- (5) 「人間と自然が共に生きるしくみ」社会人講師活用事業, 2005年12月19日, 於: 岡山県立津山工業高等学校

大谷 卓史 (おおたに・たくし)

①著訳書

- (1) ヴィクター J. カッツ著 (共訳) 『カッツ 数学の歴史』 (共立出版), 第1章～第5章, 第18章4節, 3-218, 939-963

②学術論文

- (1) 「ピア・トゥ・ピアファイル共有ソフトウェア規制をめぐる論争」 (単著) 『吉備国際大学政策マネジメント学部紀要』 創刊号 (2005年), 19-37.

④学会発表

- (1) 「言語の起源論はどのような科学なのか」 言語の起源と進化ワークショップ, 日本進化学会第7回年大会 (於, 東北大学), 2005年8月27日 (単独発表)
- (2) “The Introduction and Development of Transistor Technology in Japan from 1948 to 1959,” Society for History of Technology, 2005 Annual Meeting at Minneapolis, 2005年11月4日 (単独発表)

⑤書評論文

- (1) 「進化思想を知る・考える 書評: カール・ジンマー著 『「進化」大全 ダーウィン思想: 史上最大の科学革命』, ロバート・アンジェ編 『ダーウィン文化論 科学としてのミーム』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年2月号, 2005年1月22日, p.82.
- (2) 「技術・ビジネス・生活をつなぐ 書評: ジョー・ティッド, ジョン・ベサント, キース・パビット著 『イノベーションの経営学 技術・市場・組織の統合的マネジメント』, 伊福部達 『福祉工学の挑戦 身体機能を支援する科学とビジネス』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年3月号, 2005年2月22日, p.90.
- (3) 「『自己』の生成: 遺伝子とシナプスをめぐる冒険 書評: ピーター・リトル 『遺伝子と運命 夢と悪夢の分岐点』, ジョゼフ・ルドゥー 『シナプスが人格をつくる 脳細胞から自己の総体へ』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年4月号, 2005年3月22日, p.88.
- (4) 「科学主義と蒙昧主義のあいだ 書評: ニコラス・ハンフリー 『喪失と獲得——進化心理学から見た心と体』, ジョン・ホーガン 『科学を捨て, 神秘へと向かう理性』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年5月号, 2005年4月22日, p.76.
- (5) 「複雑で豊かな世界の謎を解明するネットワークの科学 書評: スティーヴン・ストロガッツ著 『SYNC なぜ自然はシンクロしたがるのか』, マーク・ブキャナン 『複雑な世界, 単純な法則 ネットワーク科学の最前線』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年6月号, 2005年5月22日, p.84.
- (6) 「『言語の生物学』からヒトの心を探る 書評: ゲアリー・マーカス著 『心を生み出す遺伝子』, レイ・ジャッケンドフ著 『心のパターン 言語の認知科学入門』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年7月号, 2005年6月22日, p.78.
- (7) 「進化学から愛と自由の起源を考える 書評: ナイルズ・エルドリッジ著 『ヒトはなぜするのか』, ダニエル・C. デネット 『自由は進化する』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年8月号, 2005年7月22日, p.76.
- (8) 「バイオ・医療技術への欲望と人間の幸福 書評: レオン・R. カス著 『生命操作は人を幸せにするのか』, ユルゲン・ハーバーマス著 『人間の未来とバイオエシックス』」 (単著) 『バイオニクス』 2005年9

月号, 2005年8月22日, p.86.

- (9) 「社会生物学論争とは何だったのか 書評：ウリカ・セーゲンストローレ著『社会生物学論争史 誰もが真理を擁護していた』(1)・(2)」(単著)『バイオニクス』2005年10月号, 2005年9月22日, p.87.
- (10) 「『こころ』はどこにあるのか——神経科学と物語る『私』 書評：ベンジャミン・リベット著『マインド・タイム 脳と意識の時間』, ポール・ブロックス著『脳の彼方へ 神経心理学の旅』」(単著)『バイオニクス』2005年11月号, 2005年10月22日, p.80.
- (11) 「人間の生と知の旅路をたどる 書評：海部陽介著『人類がたどってきた道 “文化の多様化”の起源を探る』, ペーテル・ヤーデンフォッシュ著『ヒトはいかにして知^{サビエンス}者となったのか 思考の進化論』」(単著)『バイオニクス』2005年12月号, 2005年11月22日, p.78.
- (12) 「人間の『自然』の改変を押しとどめる論理はあるか? 書評：瀧井宏臣『人体ビジネス 臓器製造・新薬開発の近未来』, 金森修『遺伝子改造』」(単著)『バイオニクス』2006年1月号, 2005年12月22日, p.80.
- (13) 「ブックレビュー ジョージ・ジョンソン著 水谷淳訳『量子コンピュータとは何か』『ロボコンマガジン』No.38, 2005年2月15日, p.139.
- (14) 「ブックレビュー スティーヴ・グラント著 高橋則訳『アンドロイドの『脳』』『ロボコンマガジン』No.39, 2005年4月15日, p.139.
- (15) 「ブックレビュー 松浦晋也著『恐るべき旅路 火星探査機『のぞみ』のたどった12年』『ロボコンマガジン』No.41, 2005年8月18日, p.48.
- (16) 「ブックレビュー ヤノベケンジ著『KENJI YANOBE 1969-2005』『ロボコンマガジン』No.42, 2005年10月15日, p.46.
- (17) 「ブックレビュー 黒崎政男『身体にきく哲学』『ロボコンマガジン』No.43, 2005年12月15日, p.48.
- (18) 「書評：(財)武田先端計測知財団『MOT 事例研究 注目先端技術 成功の理由』『技術と経済』2005年3月号 (No.457), 2005年3月1日, p.78.
- (19) 「書評：松浦晋也『スペースシャトルの落日 失われた24年間の真実』『技術と経済』2005年8月号 (No.462), 2005年8月1日, p.79.
- (20) 「書評：喜多千草『起源のインターネット』『技術と経済』2005年9月号 (No.463), 2005年9月1日, p.70.
- (21) 「書評：金子務『オルデンバーグ —十七世紀科学・情報革命の演出者』『技術と経済』2005年10月号 (No.464), 2005年10月1日, p.76.
- (22) 「書評：ピーター・ドラッカー『はじめて読むドラッカー 【技術編】』『技術と経済』2005年11月号 (No.465), 2005年11月1日, p.53.
- (23) 「書評：岸宣仁『中国が世界標準を握る日』『技術と経済』2005年12月号 (No.466), 2005年12月1日, p.54.

⑥雑誌

- (1) 「技術史から見たP2P技術 (特集 P2P技術の基礎知識(2)) (単著)『UNIX MAGAZINE』2005年10

月号, 113-117

⑧公開講座

- (1)「第15回吉備国際大学公開講座 情報を賢く使って生活を豊かに安全に」2005年5月7日, 高梁市総合文化会館.

⑩講演

- (1)「『のまネコ』問題からインターネットの著作権を考える」岡山県立高梁高等学校出張講義1年1~5組, 2005年11月11日, 2005年11月14日, 2005年11月29日.

岡崎 郁子 (おかざき・いくこ)

①著訳書

- (1)台湾東海大学中国文学系編『戦後初期台湾文学與思潮論文集』(『董桑』與湯徳章一二・二八哀史) 667-681頁) 文津出版社, 2005年1月(共著)
- (2)台湾筆会主編『走出殖民陰影論文集-2004亞太文学論壇』(「陳蕙貞著『漂泊的小羊』之背景」209-218頁) 台湾筆会, 2005年1月(共著)
- (3)李喬著『寒夜』国書刊行会, 2005年12月25日(三木直大と共訳)(台湾行政院文化建設委員会より出版助成を受けた)

⑦新聞

- (1)「台湾文学研究活発化」『産経新聞』朝刊, 2005年10月9日(取材記事)

小田 淳子 (おだ・じゅんこ)

①著書

- (1)「環境と化学物質」安原昭夫, 小田淳子(共著)(DTP出版)2005年9月12日(ISBN4-901809-99-7)

④学会発表

- (1)「4か国の大気粉じん中に検出された多環芳香族炭化水素類の汚染評価」第14回環境化学討論会, 2005年6月15日(水)~17日(金) 於:大阪市(連名発表, 小田淳子, 宮川雅充, 西川雅高, 今村清)

⑨放送

- (1)「暮らしから化学物質を考える」地球ステーション第124回, KSB瀬戸内海放送, 2005年7月20日放映

⑩講演

- (1)「暮らしと環境科学 ー日常生活が与える環境への負荷ー」ヒトと環境にやさしいまちづくり研修会, 2005年1月21日, 於:新見市まなび広場にいみ
- (2)「森林の働きと地球環境の保護についてー世界とタイの森林をとりまく現状ー」, 青少年によるEARTHエイド事業タイ王国派遣研修会, 2005年7月30日, 於:岡山市岡山青年会館
- (3)高校出張講義「環境系学科の理解と社会のニーズ」, 2005年10月14日, 於:愛媛県立新居浜西高校

②学術論文

- (1)「サンティアゴ(チリ共和国)の大気粉じんから検出した多環芳香族炭化水素類の濃度特性について」

吉備国際大学政策マネジメント学部紀要第1号, 2005年3月31日, 39-48頁 (単著)

- (2) 「トンネル大気中の多環芳香族炭化水素類から推定される移動発生源の寄与」吉備国際大学政策マネジメント学部紀要第1号, 2005年3月31日, 49-57頁 (単著)

加藤 雅彦 (かとう・まさひこ)

②学術論文

- (1) ‘Survey of Cattle Fascioliasis in Tsuyama Abattoir’ (共著, 第一著者) “Environmental Health and Preventive Medicine” Vol.10, No.3, (2005) 162-165

④学会発表

- (1) 「と畜場における牛肝蛭感染の調査」第75回日本衛生学会総会, 2005年3月29日, 於:新潟市 (連名発表, 第一著者)
- (2) 「給食従事者のリスクコミュニケーションに関する調査」平成17年度日本獣医公衆衛生学会 (中国), 2005年10月9日, 於:岡山市 (連名発表, 連名著者)

⑩講演

- (1) 「食品安全に関わる法改正と HACCP に対する行政の取組み」平成16年度第8回 HACCP 責任者養成基礎研修, 2005年3月22日, 於: (独) 農林水産消費技術センター岡山センター
- (2) 「環境マネジメントについて」2005年6月9日, 於:吉備国際大学
- (3) 「環境マネジメントとは?」平成17年度第3回オープンキャンパス, 2005年9月18日, 於:吉備国際大学
- (4) 「途上国の水質汚染と児島湖の水質改善」平成17年度岡山市児島湖流域環境保全推進員ブロック会議連絡協議会総会, 2005年11月18日, 於:岡山市職員研修所

剣持 貴弘 (けんもつ・たかひろ)

②学術論文

- (1) “Simulation studies on sputtering in rough surface” (共著 第一著者) Nucl. Instr. and Meth. B228 (2005) pp369-372
- (2) “An extended formula for the energy spectrum of sputtered atoms from a material irradiated by light ions” (連名著者), J. Nucl. Mater 337-339 (2005) pp975-979

④学会発表等

- (1) “Theoretical studies for energy spectra of sputtered atoms due to low-energy light ions”, 「US_Japan Fusion Workshop on “Low energy ion sputtering”」, 2005年5月19日 於:アメリカ (連名発表, 登壇者)
- (2) “Computer-simulation studies of plasma-surface interactions” 「US_Japan Fusion Workshop on “Low energy ion sputtering”」 2005年5月19日 於:アメリカ (連名発表)
- (3) “Simulation Studies on Re-emission and Thermal Desorption of Deuterium from a Tungsten Material” 「European Congress on Advanced Materials and Processes 2005」, 2005年9月5日 於:チェコ共和国 (連名発表, 筆頭著者)

高橋 選哉 (たかはし・えりや)

②学術論文

- (1) 「非営利組織体会計における減価償却の検討：公益法人会計基準を中心として」(単著)『非営利法人』第41巻第1号(2005年), 4-12
- (2) 「米国におけるボランティアの会計：その特徴と現状」(単著)『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第1号(2005年), 73-79
- (3) 「非営利組織体の活動報告」(単著)『非営利法人研究学会誌』第7号(2005年), 113-123
- (4) 「新公益法人会計基準における収益・費用：企業会計との比較を通して」(単著)『非営利法人』第41巻第9号(2005年), 32-40
- (5) 「固定資産の減損に係る研究～会計と税務の観点からの検討～」(共著)『税務会計研究』第16号(2005年), 121-143
- (6) 「非営利法人課税の総合的検討」(共著)『税務会計研究』第16号(2005年), 145-304
- (7) 「オーストラリア」(単著)『固定資産の減損に係る研究』税務会計研究学会特別委員会(2005年), 63-70

④学会発表

- (1) 「公益法人会計基準における収支計算書の役割の変遷」第21回日本簿記学会全国大会, 2005年9月3日, 於：明治大学(単名発表)
- (2) 「固定資産の減損に係る研究(最終報告)」第17回税務会計研究学会, 2005年10月2日, 於：神戸大学(連名発表〔齋藤真哉〕, 連名著者)

⑩講演

- (1) 「知的財産について」学部・学科・分野理解のための説明会, 2005年9月26日, 於：岡山県立玉島高等学校
- (2) 「身近な知的財産」模擬授業, 2005年12月2日, 於：広島国際学院高等学校

橋本久美子 (はしもと・くみこ)

①学術論文

- (1) “Quick response of the near-Earth magnetotail to changes in the interplanetary magnetic field”, Hashimoto, K. K., and T. Kikuchi, *The Inner Magnetosphere: Physics and Modeling*, edited by Pulkkinen, AGU Geophysical Monograph Series 155, 41, 2005
- (2) “Evolution of ionospheric plasma flow in the polar cap due to southward turning of the IMF”, Hashimoto, K. K., and T. Kikuchi, 『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第1号(2005年), 81

④学会発表

- (1) “Role of the ionospheric convection in space weather”, 橋本久美子, 菊池崇, L. R. Lyons, CAWSES 宇宙天気シンポジウム2005, 2005年4月6日(登壇者)
- (2) “Pseudo-breakup and substorm expansion controlled by ionospheric convection”, 橋本久美子, 菊池崇, 佐川永一, 2005年5月22日, 地球惑星科学関連合同大会2005年, 幕張・千葉県(登壇者)

- (3) “Instantaneous development of the plasma convection in the global ionosphere and in the inner magnetosphere”, 橋本久美子, 菊池崇, 大高一弘, 2005年7月25日, 国際地球物理・超高層物理学会2005, トゥルーズ・フランス, (登壇者)
- (4) 「磁気嵐の各相に対応する赤道電離圏電場」, 菊池崇, Bela Fejer, 橋本久美子, 篠原学, 北村健太郎, 2005年9月28日, 第118回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会, 京都 (共著書)
- (5) 「極域電離圏対流と極赤道電磁エネルギー結合」橋本久美子, 石川裕子, 渡辺堯, 菊池崇, STE研究会『中緯度短波レーダー研究会』, 2005年11月7日, 豊川・愛知県 (登壇者)
- (6) 「グローバル電離圏と内部磁気圏の対流発達過程」, 橋本久美子, STE研究集会『磁気圏－電離圏複合系における対流に関する研究会』, 2005年11月15日, 倉敷・岡山県 (登壇者)
- (7) 「領域2沿磁力線電流によるグローバル電離圏電場変動の検証」, 石川裕子, 橋本久美子, 渡辺堯, 菊池崇, STE研究集会『磁気圏－電離圏複合系における対流に関する研究会』, 2005年11月15日, 倉敷・岡山県 (共著者)
- (8) 「storm / substorm 時の磁気圏電場による低緯度磁気擾乱」, 菊池崇, 橋本久美子, 篠原学, 北村健太郎, Bela Fejer, STE研究集会『磁気圏－電離圏複合系における対流に関する研究会』, 2005年11月15日, 倉敷・岡山県 (共著者)

⑩講演

- (1) 「オーロラと私たちの生活」, 2005年8月29日 岡山県立倉敷中央高等学校
- (2) 「オーロラと私たちの生活」, 2005年10月11日 岡山県立林野高等学校

馬場 玄式 (ばば・はるつね)

⑨放送

- (1) 「まるごと吉備国 ラジオでゼミナール：知的財産について」山陽放送, 2005年12月19日放送
- (2) 「まるごと吉備国 ラジオでゼミナール：知的財産について」山陽放送, 2005年12月26日放送

⑩講演

- (1) 「知的財産について」2005年7月1日, 於：神戸国際大学附属高等学校

藤原 福一 (ふじわら・ふくいち)

⑩講演

- (1) 食・みどり・水・環境を守る学習会 講師 2005年1月22日 於：岡山第2合同庁舎 (岡山市)
- (2) 岡山県生涯学習大学「世界との連携」講師 2005年9月14日 於：吉備国際大学 (高梁市)
- (3) 公害防止管理者等研修会 講師 2005年9月15日, 於：中国四国農政局 (岡山市)
- (4) アスベスト問題講演会 IN 岡山 講演 2005年11月20日, 於：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館 (岡山市)

眞島 宏明 (まじま・ひろあき)

⑦新聞

- (1) 「対談特集 教育新風」対談『山陽新聞』朝刊, 2005年7月17日

⑩講演

- (1) 「知的財産の世界へ」, 2005年8月2日, 於: 駿台予備学校神戸校
 (2) 「知的財産の世界へ」, 2005年9月14日, 於: 河合塾京都校
 (3) 「知的財産の世界へ」, 2005年10月7日, 於: 河合塾大阪南校
 (4) 「知的財産の世界へ」, 2005年11月2日, 於: 駿台予備学校福岡校
 (5) 「知的財産はスゴイ!」, 2005年11月14日, 於: 北九州予備校博多校
 (6) 「知的財産はスゴイ!」, 2005年12月6日, 於: 岡山進研学院

宮川 雅充 (みやかわ・まさみつ)

②学術論文

- (1) 「健康に対するリスク要因としての騒音」(単著, 第一著者)『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』創刊号(2005年), 5-9
 (2) 「都道府県における SARS 対策の実施状況」(共著, 第一著者)『日本公衆衛生雑誌』52巻9号(2005年), 824-832

④学会発表

- (1) 「幹線道路近傍の住民に対する騒音と振動の複合影響」日本騒音制御工学会春期研究発表会, 2005年4月22日, 於: 東京都(連名発表, 登壇者)
 (2) 「4か国の大気粉じん中に観察された多環芳香族炭化水素類の汚染評価—中国・チリ・ベトナム・日本の比較—」第14回環境化学討論会, 2005年6月15日, 於: 大阪市(連名発表, 連名著者)
 (3) 「種々の音源に対する住民反応を利用した音環境の評価方法」日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集, 2005年9月15日, 於: 横浜市(連名発表, 登壇者)
 (4) 「都道府県の SARS 対策に関する質問紙調査—リスクコミュニケーションおよびクライシスコミュニケーションの観点から—」日本リスク研究学会第18回研究発表会, 2005年11月13日, 於: 大阪市(連名発表, 登壇者)
 (5) 「航空機騒音による生活妨害と健康影響」日本音響学会関西支部第8回若手研究者交流研究発表会, 2005年12月15日, 於: 京都市(連名発表, 登壇者)

村本 茂樹 (むらもと・しげき)

④学会発表

- (1) 「魚体へのアルミニウムの蓄積及び毒性に及ぼす陰イオン界面活性剤の影響」, 第1回 高梁学園コンファレンス研究発表会, 2005年2月19日, 於: 九州保健福祉大学

⑧出張講義

- (1) 「環境ビジネス, 世界の動き」2005年2月22日 於: 広島県立世羅高校
 (2) 「環境問題の今」2005年3月8日 於: 鳥取県立米子北高校
 (3) 「身近な環境問題」2005年8月25日 於: 島根県立松江東高校

- (4)「水からのメッセージ」2005年8月29日 於：倉敷中央高校
 (5)「環境ホルモンとは」2005年11月1日 於：岡山県立高梁高校

⑨放送

- (1)「くらしと環境 ①」RSK ラジオ, 2005年11月26日放送
 (2)「くらしと環境 ②」RSK ラジオ, 2005年12月3日放送

⑩講演

- (1)「環境とまちづくり」2005年7月15日 高梁商工会議所講演会 於：高梁商工会議所
 (2)「環境リスクマネジメント学科の展望」2005年7月24日 吉備国際大学オープンキャンパス, 於：吉備国際大学
 (3)「岡山県地域特性を活かしたまちづくり構想」2005年8月8日 岡山県商工連合会特別委員会, 於：岡山ロイヤルホテル
 (4)「環境とまちづくり」2005年9月26日 総社吉備路商工会委員会, 於：吉備路サンロード
 (5)「人材育成にかかわる指導者の要件」2005年12月17日 スポーツ指導者協議会講演会 於：熊山ふれあいセンター

森野 真理 (もりの・まり)

②学術論文

- (1)“A guideline for ecological risk management procedures” (共著 連名著者), Landscape and Ecological Engineering, vol.1 (2005), pp221–228

④学会発表

- (1)「猿害発生リスクの評価」第52回日本生態学会, 2005年3月28日, 於：大阪国際会議場 (連名発表, 登壇者)

⑩講演

- (1)「猿害発生リスクの評価」第4回生物・生態環境リスクマネジメントシンポジウム, 2005年3月23日, 於：横浜国立大学 (連名発表, 登壇者)
 (2)「サルとヒトの共有地としての森」, 2005年7月13日, 於：如水館高校
 (3)「屋久島における地域住民の森の価値：獣害と森林管理」水と緑の計画学シンポジウム, 2005年12月17日, 於：京都市国際交流会館 (連名発表, 登壇者)

矢吹 邦彦 (やぶき・くにひこ)

⑨放送

- (1)「心の時代—山田方谷の足跡から」2日間対談, 平成17年11月, NHK ラジオ

⑩講演

- (1)「山田方谷に学ぶ」, 平成17年1月, 中小企業診断協会講演
 (2)「山田方谷に学ぶ」, 平成17年2月, 萩原工業講演
 (3)「山田方谷に学ぶ」, 平成17年5月, 備前方谷会講演

- (4) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年6月, 久米郡商工会講演
- (5) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年7月, 宮崎県町村会講演
- (6) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年7月, 岡山県商工会長研修会講演
- (7) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年8月, 中国経済連合会理事会講演
- (8) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年8月, 上市地域づくり推進講演
- (9) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年9月, 倉敷教育委員会講演
- (10) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年10月, 岡山県備南ロータリー30周年記念講演
- (11) 「山田方谷に学ぶ」, 平成17年11月, 岡山県高等学校校長研修会講演
- (12) 「山田方谷に学ぶ」, 平成18年1月, 松原地域文化講演会講演